

千葉県におけるシャープゲンゴロウモドキ再導入の 取り組みとその効果

千葉県 環境生活部 自然保護課 生物多様性センター
西川 歩美

シャープゲンゴロウモドキ



- 体長3cmほどの大型のゲンゴロウの仲間
- セリなどの植物に産卵
- 幼虫は水中でミズムシやオタマジャクシを捕食
- 畔などの土中で蛹になる
- 成虫は様々な水生生物を捕食
- 千葉県での寿命は1~2年と推定

分布

- 関西型と関東型に分かれる
- 関東型は1937年の千葉県での記録以降、途絶える
 - 1984年に千葉県で再発見
- 2000年以降、7カ所の生息地を確認
 - 2008年以降、**2カ所に減少**
- 種の保存法で国内希少野生動植物種に指定(2011年)
- 環境省レッドリスト 絶滅危惧 I A類
- 千葉県レッドリスト 最重要保護生物



千葉県での保全の取り組み

■ シャープゲンゴロウモドキ保全協議会の設置（2008年～）

〔委員〕 県、関係市町、保全団体、専門家

■ 千葉県シャープゲンゴロウモドキ回復計画を策定（2010年3月） （2015年3月改訂）

■ 計画に沿った保全事業の実施

- ・ モニタリング
- ・ 生息地の環境再生、維持管理
- ・ 外来種対策
- ・ 密猟対策
- ・ 系統保存
- ・ 普及啓発



再導入実施の背景

県内の生息地はわずか2カ所 生息地点の増加が大きな課題

- 2003年から系統保存を行っている地域個体群
- 2005年以降生息確認がなく、地域絶滅
過剰な捕獲圧が原因と考えられる
- 系統保存の実施 鴨川シーワールド
千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会
- 長年の工夫により、系統保存の技術が確立
- 毎年多数の幼虫・成虫を得ることが可能となった



➡ 元の生息地に再導入できないか？

再導入の実施に向けて

再導入に向けて、基準やワークフローの設定が必要

➡ 千葉県シャープゲンゴロウモドキ再導入・補強計画の策定(2019年1月)

- ・ IUCNや環境省のガイドラインに準拠

移殖を検討する地点

環境整備・維持管理の方法

地権者の同意を得るべき項目

移殖する個体の選定基準

放出の方法

モニタリング方法

実施終了と中止の基準 などを明確化

再導入実施の課題

1. 再導入地の環境は生息に適しているか？
2. 再導入する個体は適切か？
3. 地権者の理解が得られるか？

再導入地の環境は生息に適しているか？

候補地は利用(水田、生息地保全)されなくなり、
陸地化・乾燥化

→ このままではシャープゲンゴロウモドキは生息できない



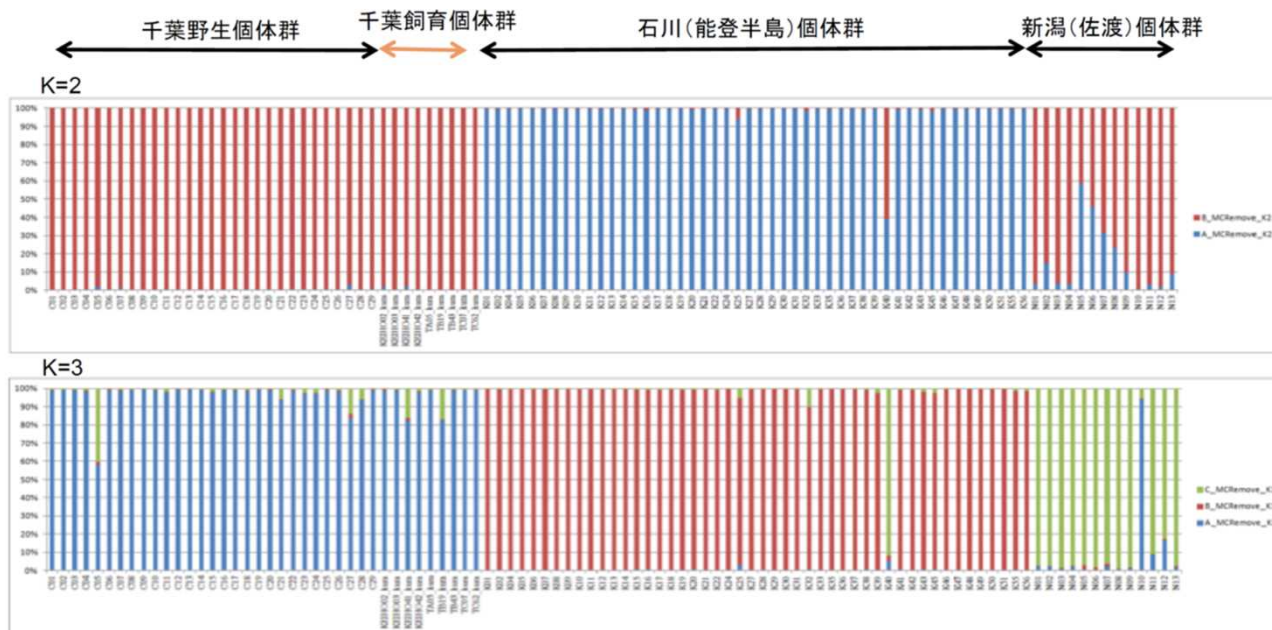
重機を使って掘削、
水域を創出

➡ 面積、水深、水温などの条件が異なる複数の水域が形成
→ アカガエル、ミズムシなど餌になる動物の生息を確認



再導入する個体は適切か？

系統保存個体の遺伝的多様性や、交雑の有無の把握のため、遺伝子解析を実施



- 再導入候補の飼育個体群は異なる遺伝子プールの混合ではない
- 遺伝的多様性はやや低いが、ゼロではない

➡ 再導入する個体として適格であると判断

地権者の理解が得られるか？

再導入候補地は民地であるため、地権者の同意と協力が不可欠

- 複数回の丁寧な事前説明

種を保全する意義、保全に伴う土地利用の制限などを明確に説明

- 地権者にアドバイスをもらいながら、水域を創出

- 再導入時とその後の管理に可能な範囲で立ち会ってもらう



➡ 地権者の理解・協力を得て保全を実施

再導入の実施



1齢幼虫



2齢幼虫



3齢幼虫

2019年4月、5月

幼虫240個体を4回に分けて放虫

再導入が実現！

再導入後の経過



■ 再導入後1年目

2019年7月～2020年2月 成虫8個体

■ 再導入後2年目

2020年3、4月 幼虫37個体

2020年10月 成虫2個体

■ 再導入後3年目

2021年3、4月 幼虫52個体

2021年6月 成虫15個体



自然下で交尾、越冬、産卵、孵化に成功していることを確認！

今後の予定

- 当面、系統保存個体の追加放虫はしない。
→ 今後順調に個体数が増えていくのか？
- 生息状況、植生遷移、外来種の侵入等のモニタリング、
環境維持をしながら経過を追っていく。





ご清聴ありがとうございました。